

授業科目名	安全作業基礎			開講年度・時期	2026年度 導入期
担当者名	内田 景己	単位数	1	総校時数	30
担当教員 実務経験	教科に関係するものとして、坑内掘りの甲種石炭鉱山にて保安技術管理業務を15年間、金鉱脈探 鉱調査の鉱山にて保安監督業務を3年間の実務経験あり				
授業の方法	講義 演習 実験 実習 実技 その他（講義・演示・計算演習・実習併用）				
授業の内容 （授業科目 の概要）	日本の安全作業の基礎について、雇入れ時の教育に基づき、安全作業用語を学び、「労働安全衛生法」の内容と用 語の意味を広く学び、法令遵守並びに安全活動の重要性の必要性を学ぶ。				
年間の授業 計画（授業 の回数やス ケジュール）	雇入れ時や作業内容変更時は、以下の事項について教 安全作業の基礎となる取組みを知る 育を行う必要があります。これは、法的に定められた 労働災害の原因・ヒューマンエラー（不安全状態と不安全行 動） （1）機械等、原材料等の危険性又は有害性及びこれら 労働災害による損失（現状認識） の取扱い方法に関する事 災害から国民を守る（法令の体系） （2）安全措置、有害物抑制装置又は保護具の性能及び 法律について、目的と意義（法令の体系） これらの取扱い方法に関する事 法令で定められている義務（法令の体系） （3）作業手順に関する事 （4）作業開始時の点検に関する事 （5）当該業務に関して発生するおそれのある疾病の原 理解度判定（演習） 因及び予防に関する事 （6）整理、整頓及び清潔の保持に関する事 （7）事故時等における応急措置及び退避に関する事 （8）前各号に掲げるもののほか、当該業務に関する安 全又は衛生のために必要な事項				
到達目標	日本の安全作業の基礎となる「雇入れ時教育」に基づき、安全作業用語を学ぶ 「労働安全衛生法」の内容と用語の意味を広く学び、法令遵守並びに安全活動や各種マネジメン トシステムの基礎知識を得る				
成績評価の 方法・基準	課題についての試験又は提出物（レポート） 授業中の取り組み姿勢（意見発表・意見交換等を積極的に行っているか） 疑問解消への努力（積極的に質問を行う等、理解する努力を行っているか）				
受講にあたって の留意事項	講義の目的を考え、自己目標をしっかりと立て、それに向かって積極的な姿勢で学ぶ。講義時間 やレポート提出などの約束事は必ず守ること。				
使用教科書・参考 文献等	書名	著者名・出版社		ISBN	
	いちばんやさしい労働安全衛生法	加藤雅章・中央労働災害防止協会		978-4-8059-1771-8	
	講師が作成した説明資料を配布				

※ 欄内に収まり切れない場合には、項目を明示したA4サイズの別紙を添付してください。

授業科目名	安全用語基礎			開講年度・時期	2026年度 導入期
担当者名	内田 景己	単位数	1	総校時数	30
担当教員 実務経験	教科に関係するものとして、坑内掘りの甲種石炭鉱山にて保安技術管理業務を15年間、金鉱脈探 鉱調査の鉱山にて保安監督業務を3年間の実務経験あり				
授業の方法	講義 演習 実験 実習 実技 その他（講義・演示・計算演習・実習併用）				
授業の内容 （授業科目 の概要）	安全活動の意義とその効果について、一般に実施している安全活動の演習を通して、やり方を学びながら、日本の安全 作業の基礎となる「安全作業用語」を学ぶ。				
年間の授業 計画（授業 の回数やス ケジュー ル）	<p>【安全衛生教育の安全用語の基礎】</p> <p>安全衛生教育で理解してもらいたいこと☑</p> <p>「職場にはさまざまな危険がある」☑</p> <p>「かもしれない」で危険の意識をもつ。☑</p> <p>「災害防止の基本」（その1）～さまざまなルールや活 動がある☑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい作業服装の着用 ・作業手順の励行 ・4S（5S）の励行 ・ヒヤリ・ハット活動（ハインリッヒの法則） ・危険予知訓練（KYT） ・リスクアセスメント ・安全衛生マネジメントとPDCAサイクル ・危険の見える化 <p>「災害防止の基本」（その2）～安全な作業の基本がある☑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はさまれ・巻き込まれ」災害の防止 ・「転倒」「転落・墜落」災害の防止 ・「切れ・こすれ」災害の防止 ・「熱中症」の予防 ・「腰痛症」の予防 <p>「災害防止の基本」（その3）～もし労働災害が発生したら☑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異常事態発生時の対応 ・労働災害発生時の対応 <p>理解度判定（演習）</p>				
到達目標	安全活動の演習を通して、日本の安全作業の基礎となる「安全作業用語」を学ぶ。 また、一般に実施している安全活動の演習を通して、やり方を学びながら、災害の要因やその背 景を知ると共に、「災害に関連する用語」を学ぶ。				
成績評価の 方法・基準	課題についての試験又は提出物（レポート） 授業中の取り組み姿勢（意見発表・意見交換等を積極的に行っているか） 疑問解消への努力（積極的に質問を行う等、理解する努力を行っているか）				
受講にあたって の留意事項	講義の目的を考え、自己目標をしっかりと立て、それに向かって積極的な姿勢で学ぶ。 講義時間やレポート提出などの約束事は必ず守ること。				
使用教科書・参考 文献等	書名	著者名・出版社		ISBN	
	いちばんやさしい労働安全衛生法	加藤雅章・中央労働災害防止協会		978-4-8059-1771-8	
	講師が作成した説明資料を配布				

※ 欄内に収まり切れない場合には、項目を明示したA4サイズの別紙を添付してください。

授業科目名	危険体感訓練（1）			開講年度・時期	2026年度 導入期
担当者名	内田 景己	単位数	1	総校時数	30
担当教員 実務経験	教科に関係するものとして、坑内掘りの甲種石炭鉱山にて保安技術管理業務を15年間、金鉱脈探 鉱調査の鉱山にて保安監督業務を3年間の実務経験あり				
授業の方法	講義 演習 実験 実習 実技 その他（講義・演示・計算演習・実習併用）				
授業の内容 （授業科目 の概要）	災害事例研究と危険体感の演習を通じて、「災害に関連する用語」について理解度を高め、危険の感受性を高めると ともに、危険の察知能力及び危険の回避能力を高める。 また、応急手当のやり方と緊急対応についても「関連する用語」を学び、その重要性を知る。				
年間の授業 計画（授業 の回数やス ケジュー ル）	災害分析のやり方を学ぶ 危険体感訓練の演習に関連する災害事例研究を併せて行 い、災害の原因及び要因を理解する。 分析方法（4(5)ME災害分析） （なぜなぜ分析） （ポータイト分析） （リスクアセスメント型KY活動） 図上訓練演習の目的と効果を学ぶ 応急手当の演習（知っておきたい応急手当） 徒手搬送法（担架を用いない搬送法） 理解度判定（演習） 危険体感訓練演習の目的と効果を学ぶ ・危険体感演習（ヘルメット・安全靴） ・危険体感演習（滑り・転倒） ・危険体感演習（階段歩行） ・危険体感演習（カプラー残圧） ・危険体感演習（高圧カー水圧）				
到達目標	災害事例研究を通して「災害に関連する用語」について理解度を高める。 危険体感訓練演習を通じて、危険に対する感受性を高め、危険の察知能力と回避能力を高める 「体感訓練」の重要性を知る。 危険体感訓練演習に合わせた災害事例を活用し、応急手当と緊急対応を知る。				
成績評価の 方法・基準	課題についての試験又は提出物（レポート） 授業中の取り組み姿勢（意見発表・意見交換等を積極的に行っているか） 疑問解消への努力（積極的に質問を行う等、理解する努力を行っているか）				
受講にあたって の留意事項	講義の目的を考え、自己目標をしっかりと立て、それに向かって積極的な姿勢で学ぶ。 講義時間やレポート提出などの約束事は必ず守ること。				
使用教科書・参考 文献等	書名	著者名・出版社	ISBN		
	絵で見る労災、災害事例集	アジアクリエイイト株式会社			
	講師が作成した説明資料を配布				

※ 欄内に収まり切れない場合には、項目を明示したA4サイズの別紙を添付してください。